

## アンケート調査の概要と結果

## 1. アンケート調査の概要

計画策定の基礎資料とするため、市内在住の高齢者、サービス提供者（介護支援専門員、介護サービス提供事業所）に対して、以下の調査を行っています。

## 【各調査の概要】

	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	在宅介護実態調査	介護支援専門員調査	介護保険サービス等参入意向調査
対象	市内居住の介護保険第1号被保険者（65歳以上、要支援認定者を含む） 4,000人（抽出調査）	市内居住し、在宅で生活している要介護（要支援）認定者 1,100人（抽出調査）	事業所紹介一覧に掲載の市内外の居宅介護支援事業所の居宅介護専門員 106人（悉皆）	市内所在の介護サービス提供事業所約50事業所（悉皆）
方法	郵送による配布・回収		郵送による配布、Webフォームによる回収	
調査期間	令和7年12月1日～令和8年1月5日			令和8年春ごろ（予定）
目的・活用	○要介護状態になる前の高齢者のリスクや社会参加状況を把握することで、地域診断に活用し、地域の抱える課題を特定。 ○総合事業の評価に活用。	○要介護認定者や主な介護者の状況を把握し、要介護認定者の在宅生活の継続の可否や、介護者の就労継続の可否に有効なサービス利用のあり方、サービス整備の方向性を整理。	○介護支援専門員から見たサービスニーズを把握。 ○介護支援専門員業務の課題等を把握。	○介護サービス提供事業所の今後のサービス等の参入意向を把握。 ○介護人材の確保や生産性向上に関する事業所の現状の把握。
【参考】前回調査	令和4年11月30日～令和5年1月10日 回収数：2,187件 回収率：54.7%	令和4年12月28日～令和5年1月20日 回収数：532件 回収率：48.1%	令和5年5月22日～6月15日 回収数：83件 回収率：82.2%	令和5年6月2日～6月19日 回収数：36件 回収率：73.5%
回収数	2,537件	650件	72件	
有効回収数	2,537件	646件	72件	
有効回収率	63.4%	58.7%	67.9%	

## 2. アンケート調査結果の概要

分析結果をみる際の留意点は以下の通りです。

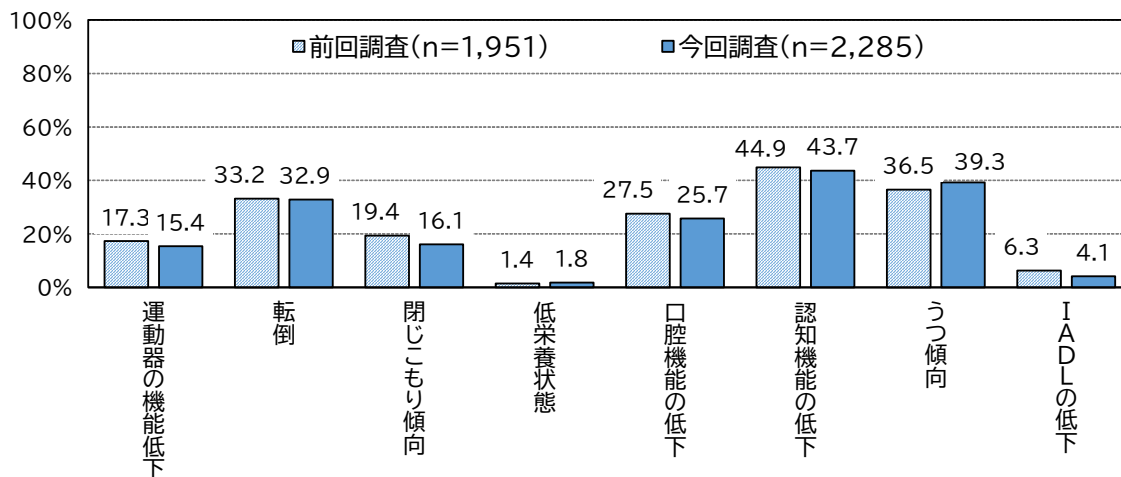
- 図表中の「n」とは、集計対象実数（あるいは該当対象者実数）を指しています。
  - 図表の数値（％）は、すべて小数点第2位を四捨五入して表示しています。そのため、単数回答を求めた設問でも、比率の合計が100％にならない場合があります。
  - 複数回答を求めた設問では、比率の合計が100％を超えます。
  - 複数回答の場合、図中にMA（Multiple Answer =いくつでも）、3LA（3 Limited Answer = 3つまで）等記載しています。また、不明（無回答）はグラフ・表から除いている場合があります。
  - 無記入、回答の読み取りが著しく困難な場合、1つまでの回答を求めている設問に対し2つ以上回答していた場合は「無回答」として処理しています。
  - グラフ中の数字は、特に断り書きのないかぎりすべて構成比を意味し、単位は％です。
  - 前回比較、クロス集計については、統計的有意差（有意水準5％、 $p < 0.05$ ）※が確認できた項目を中心に、グラフ・表を掲載しています。コメントについては、統計的有意差が確認できた項目を中心に記載しています。
- ※ 統計的に明らかな差異（統計的有意差）については、主に $\chi$ （カイ）二乗検定により確認しました。なお、 $\chi$ （カイ）二乗検定は、回答者数から不明・無回答数を除いたデータ（実回答者数）で検定を行っているため、該当するクロス項目の「不明・無回答」の割合が大きいケースなどでは、検定結果として文章で記載している内容とクロス集計図表内のデータ（割合）とが対応しないことがあります。また、ある選択肢について、該当するクロス項目の回答者数が、他のクロス項目と比べて明らかに少ない場合、 $\chi$ （カイ）二乗検定による統計的有意差を確認できていない場合があります。

## 1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果概要

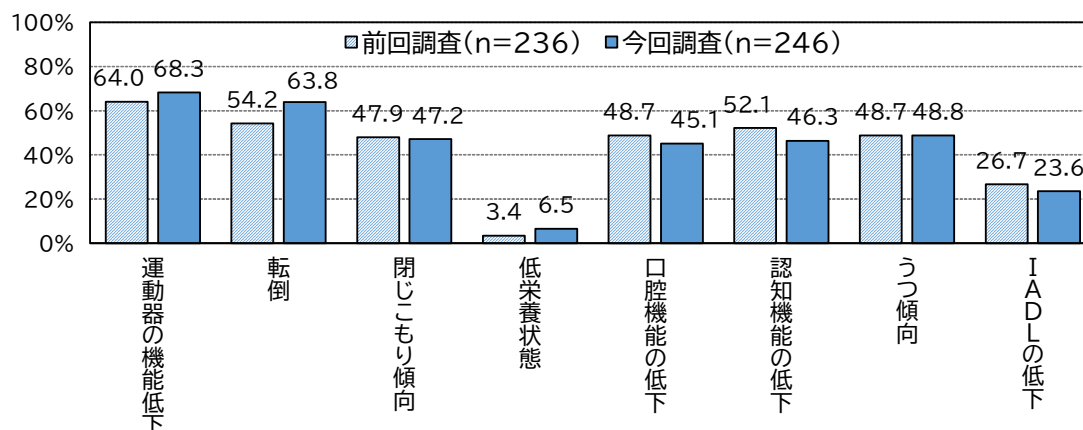
## (1) 要介護状態になるリスク

- 国の「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の手引き等を踏まえ、要介護状態になるリスクの状況を算出しました。
- 経年変化をみると、今回調査で、自立高齢者は「運動器の機能低下」「閉じこもり」「IADLの低下」リスクが減少しています。要支援認定者は「転倒」リスクが増加しています。

## 【要介護状態になるリスクがある人の割合（自立：前回比較）】



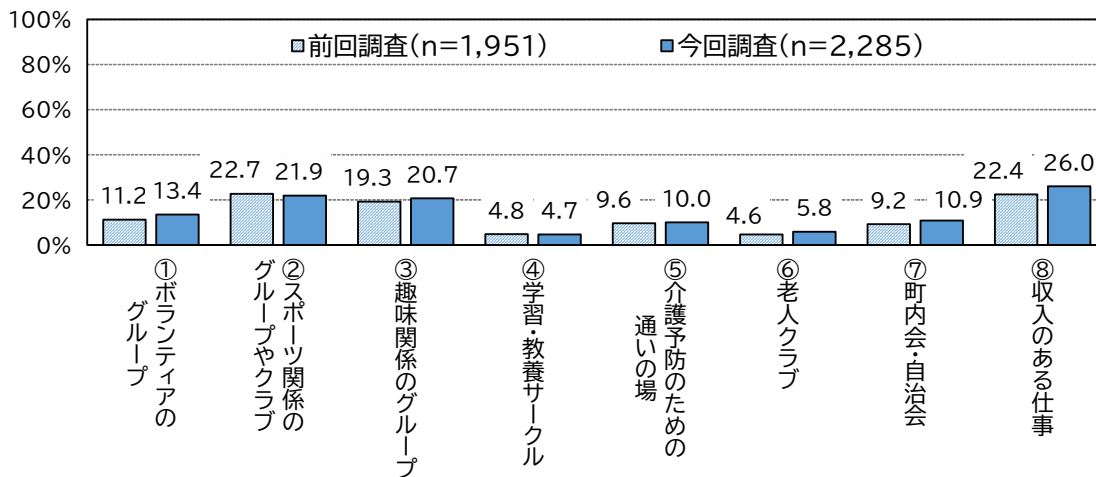
## 【要介護状態になるリスクがある人の割合（要支援：前回比較）】



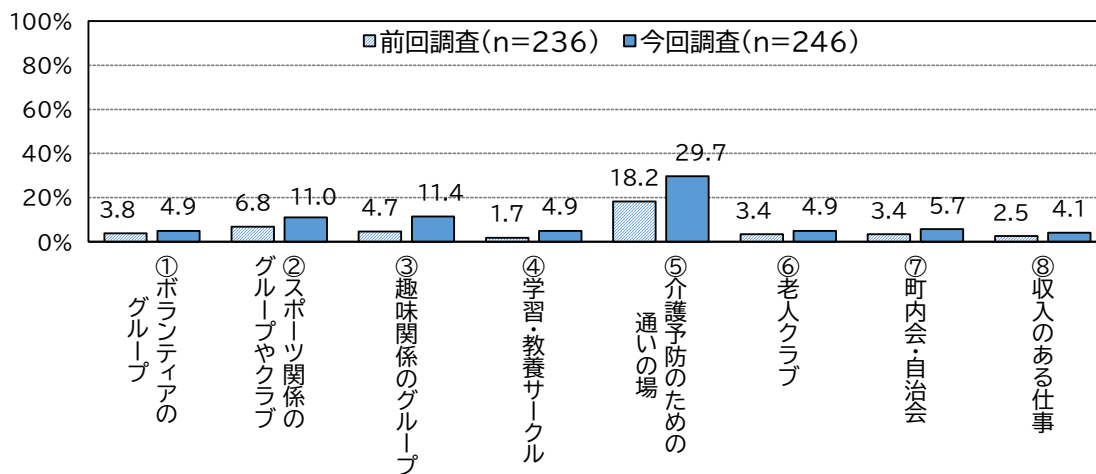
(2) 地域活動への参加状況

■ 経年変化をみると、今回調査で、要支援認定者は「②スポーツ関係のグループやクラブ」「③趣味関係のグループ」「④学習・教養サークル」「⑤介護予防のための通いの場」の月1回以上参加の割合が増加しています。

【各地域活動へ月1回以上参加の人の割合（自立：前回比較）】



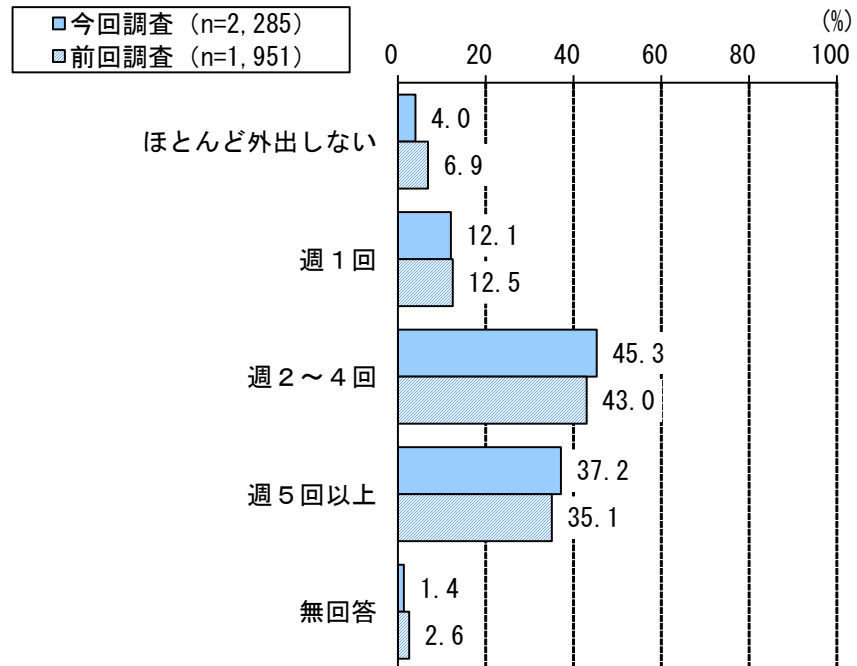
【各地域活動へ月1回以上参加の人の割合（要支援：前回比較）】



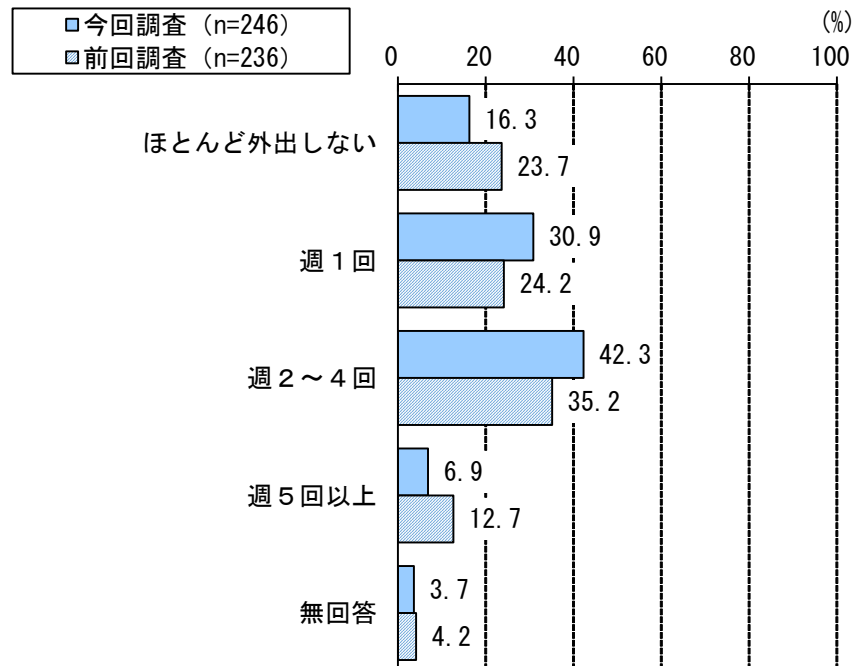
## (3) 外出状況

- 経年変化をみると、今回調査で、自立高齢者は「ほとんど外出しない」の割合が減少しています。要支援認定者は「ほとんど外出しない」「週5回以上」の割合が減少しています。

【外出状況（自立：前回比較）】



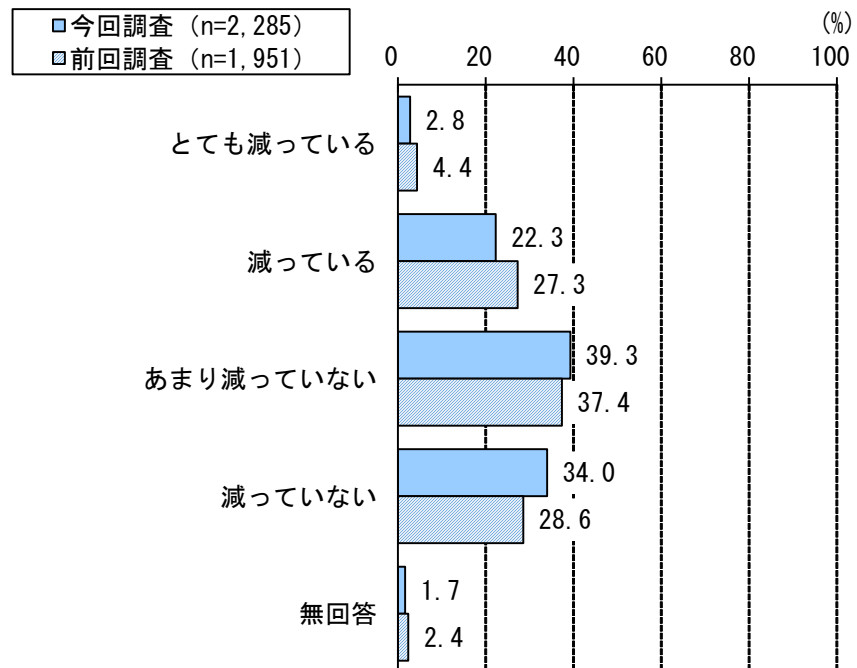
【外出状況（要支援：前回比較）】



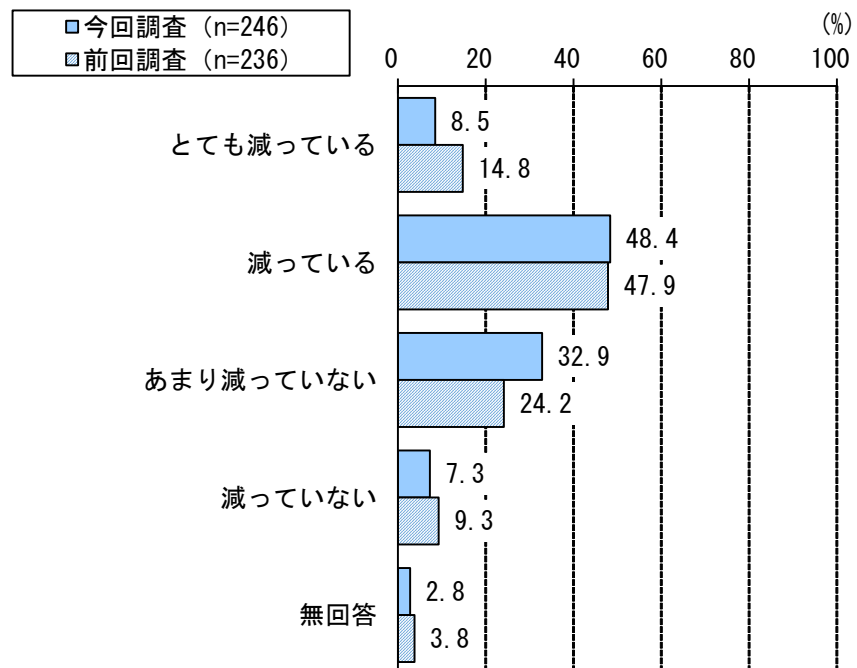
## (4) 昨年と比べた外出回数の減少

- 経年変化をみると、今回調査で、自立高齢者は「とても減っている」「減っている」の割合が減少、「減っていない」の割合が増加しています。要支援認定者は「とても減っている」の割合が減少、「あまり減っていない」の割合が増加しています。

【昨年と比べた外出回数の減少（自立：前回比較）】



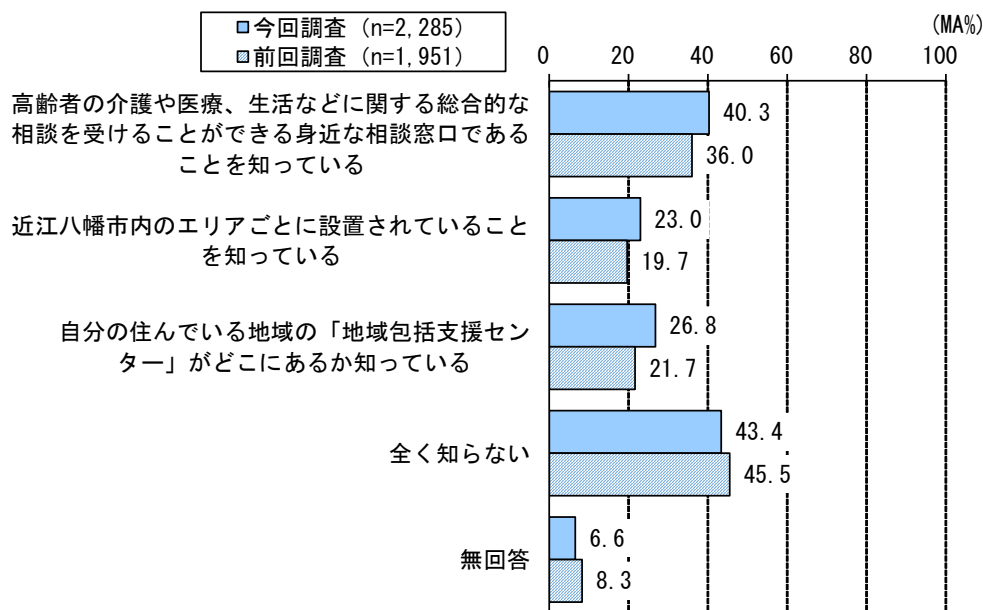
【昨年と比べた外出回数の減少（要支援：前回比較）】



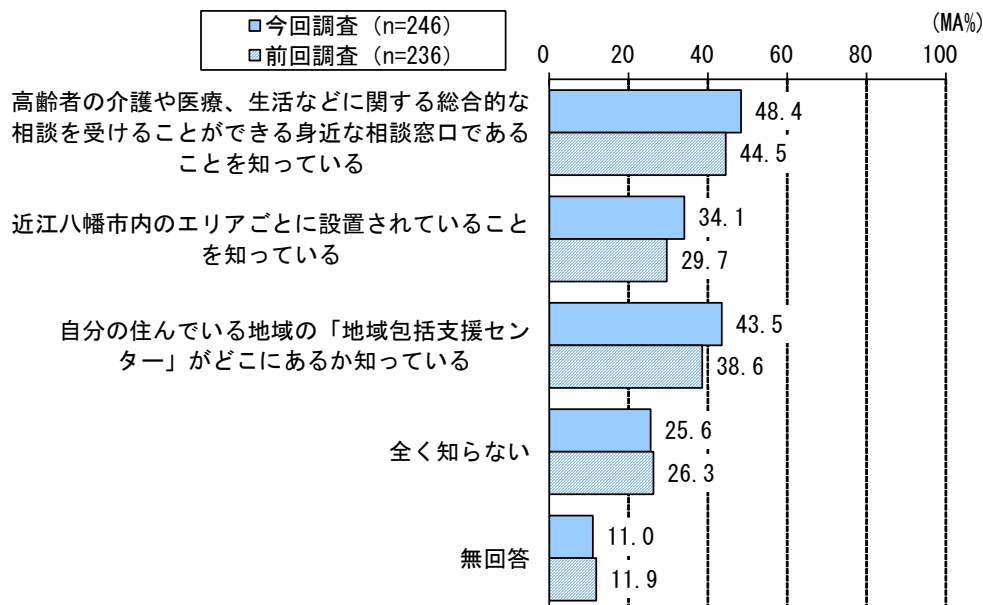
(5) 地域包括支援センターの認知

- 地域包括支援センターの認知をみると、「全く知らない」割合は、自立高齢者は4割、要支援認定者は3割となっています。
- 経年変化をみると、今回調査で、自立高齢者は「高齢者の介護や医療、生活などに関する総合的な相談を受けること」「近江八幡市内のエリアごとに設置されていることを知っている」「自分の住んでいる地域の「地域包括支援センター」がどこにあるか」の割合が増加しています。

【地域包括支援センターの認知（自立：前回比較）】



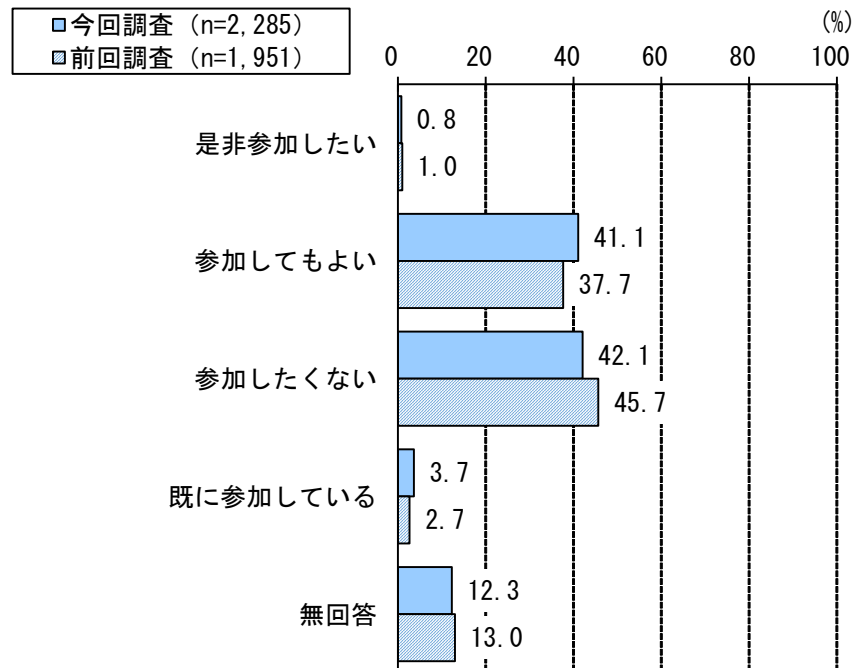
【地域包括支援センターの認知（要支援：前回比較）】



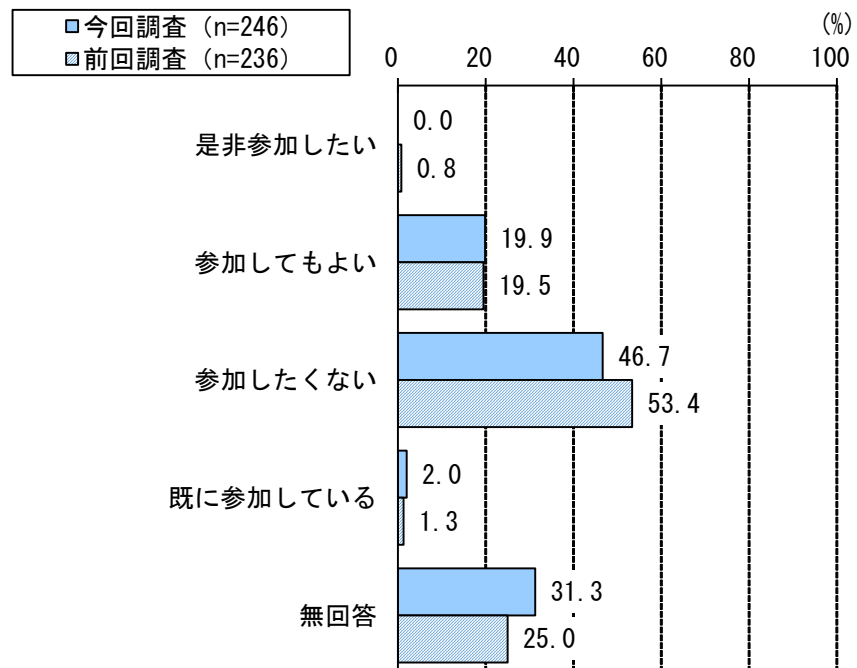
## (6) 手助けとしての支援活動への参加意向

- 経年変化をみると、今回調査で、自立高齢者は「参加してもよい」が増加し、「参加したくない」が減少しています。
- 居住地区をみると、島学区は「既に参加している」が多くなっています。

【手助けとしての支援活動への参加意向（自立：前回比較）】



【手助けとしての支援活動への参加意向（要支援：前回比較）】



## 【手助けとしての支援活動への参加意向（自立：居住地区比較）】

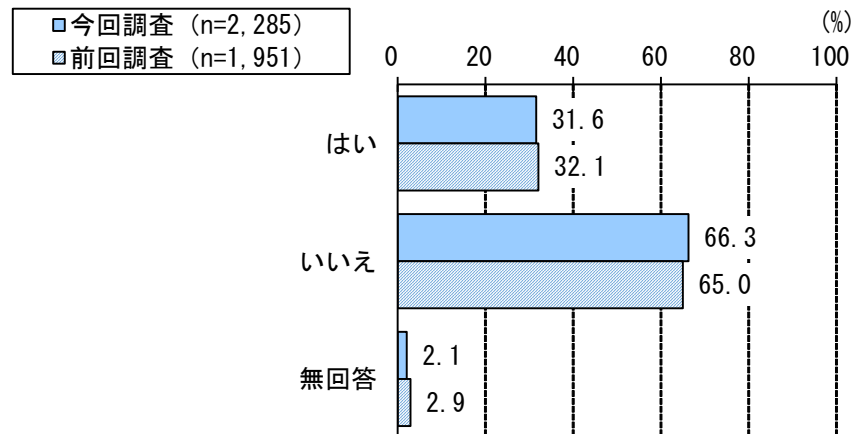
単位：%

	母数	問5 (5) (4) のような手助けとしての支援活動に参加してみたいと思いますか					
		是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答	
全体 (n=2,285)	2,285	0.8	41.1	42.1	3.7	12.3	
居住地区	八幡 (n=390)	390	1.0	41.0	42.8	3.6	11.5
	島 (n=70)	70	2.9	27.1	44.3	11.4	14.3
	岡山 (n=163)	163	1.8	40.5	39.9	3.1	14.7
	金田 (n=352)	352	0.9	37.5	45.2	1.7	14.8
	桐原 (n=526)	526	0.4	42.6	43.3	3.6	10.1
	馬淵 (n=124)	124	0.8	41.9	31.5	4.0	21.8
	北里 (n=187)	187	-	47.1	41.2	3.2	8.6
	武佐 (n=118)	118	-	42.4	37.3	5.1	15.3
	安土 (n=279)	279	1.4	43.4	41.2	4.3	9.7
	老蘇 (n=76)	76	-	34.2	50.0	5.3	10.5

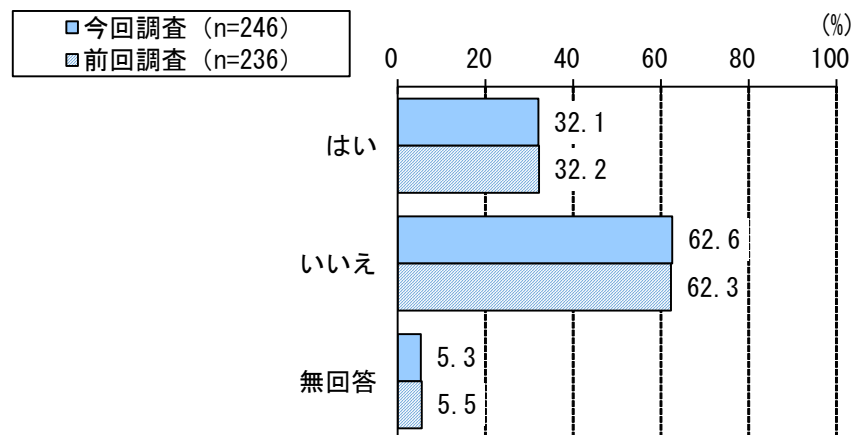
## (7) 認知症に関する相談窓口の認知

- 認知症に関する相談窓口を知っている人の割合は、自立高齢者・要支援認定者ともに3割となっています。

【認知症に関する相談窓口の認知（自立：前回比較）】



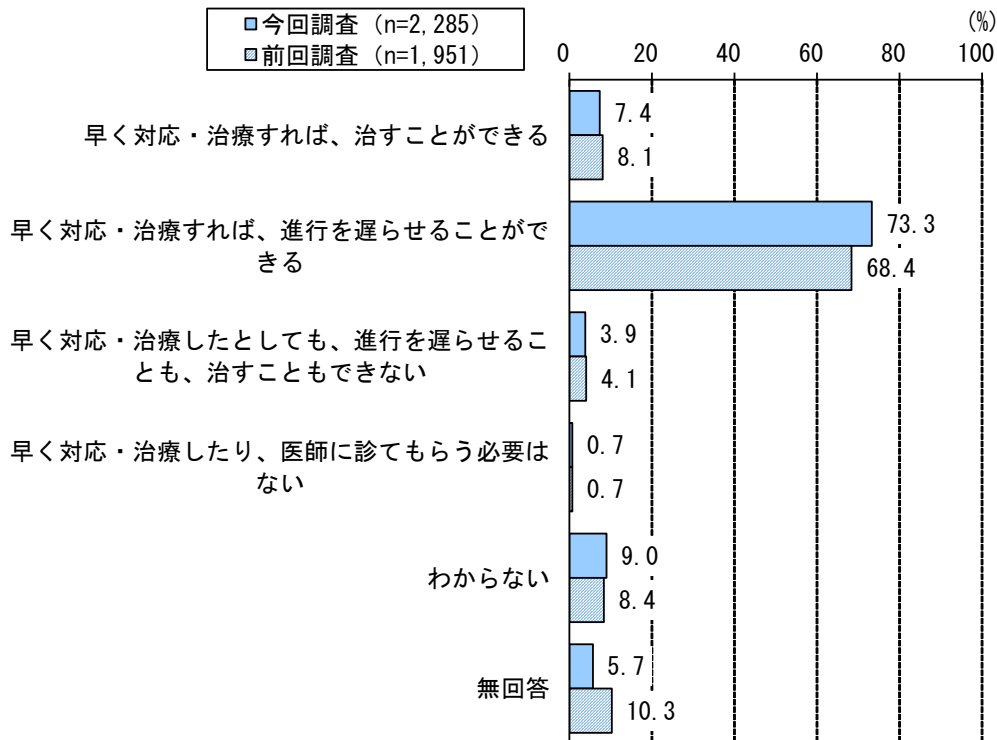
【認知症に関する相談窓口の認知（要支援：前回比較）】



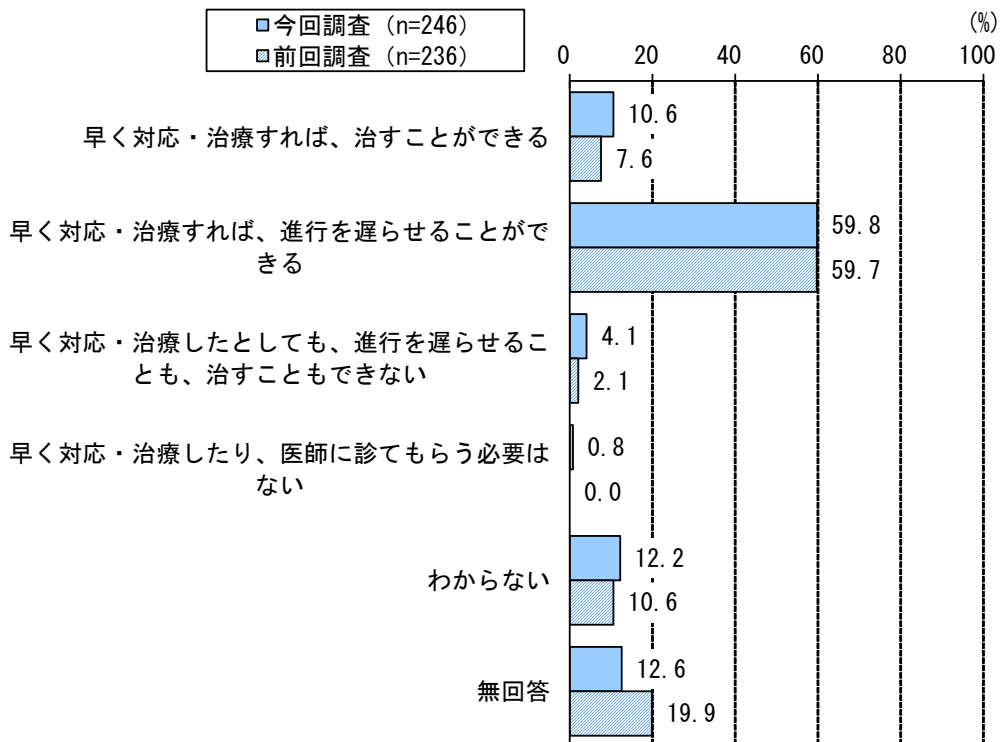
(8) 認知症の対応・治療に関する知識

- 「早く対応・治療すれば、進行を遅らせることができる」の割合は、自立高齢者は7割、要支援認定者は6割となっています。

【認知症の対応・治療に関する知識（自立：前回比較）】



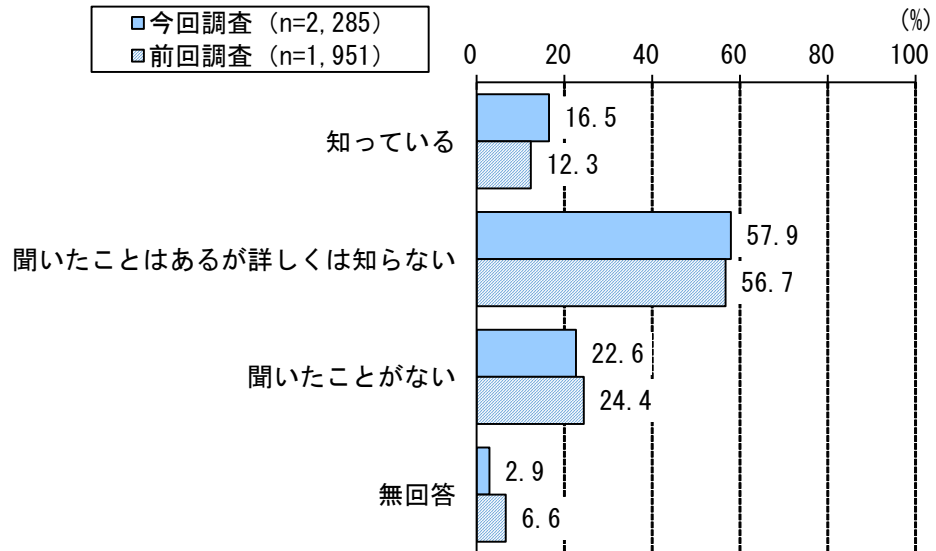
【認知症の対応・治療に関する知識（要支援：前回比較）】



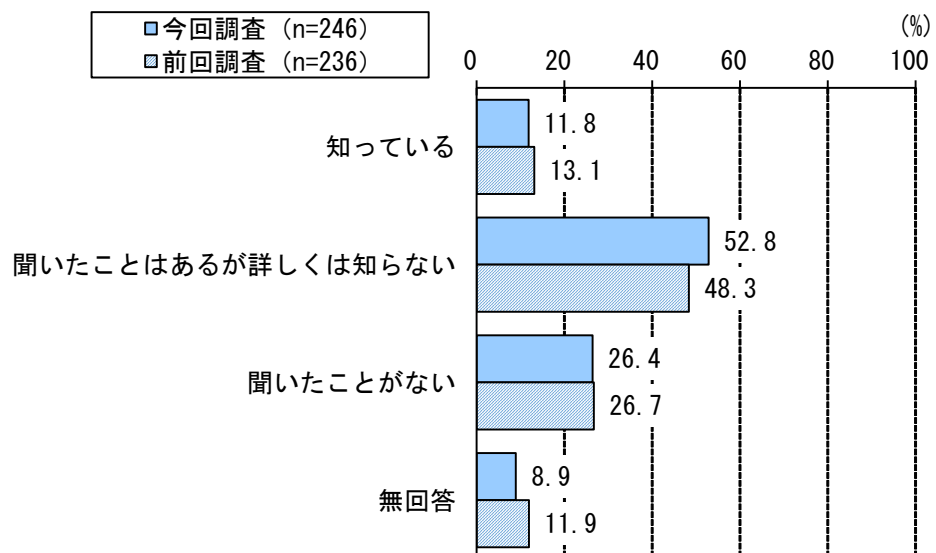
## (9) 認知症の人への適切な接し方の認知

- 経年変化をみると、今回調査で、自立高齢者は「知っている」の割合が増加し、「聞いたことがない」の割合が減少しています。

【認知症の人への適切な接し方の認知（自立：前回比較）】



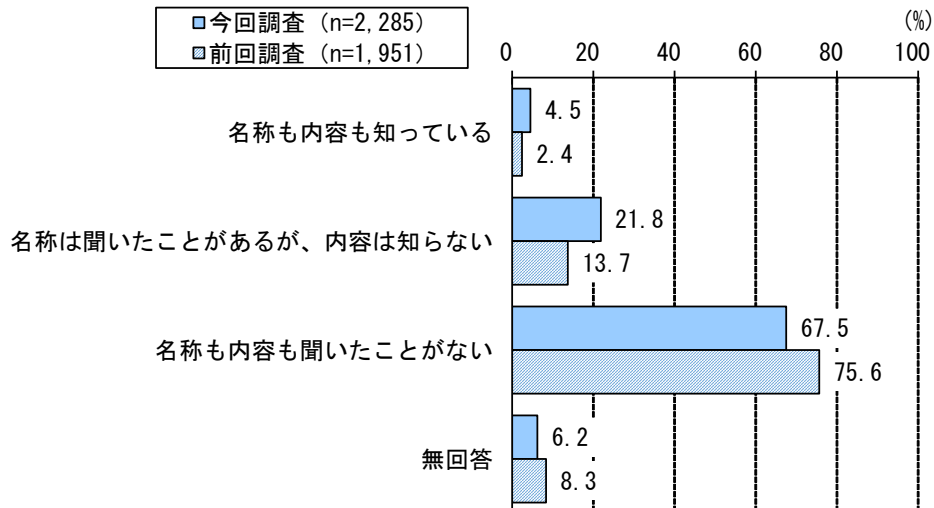
【認知症の人への適切な接し方の認知（要支援：前回比較）】



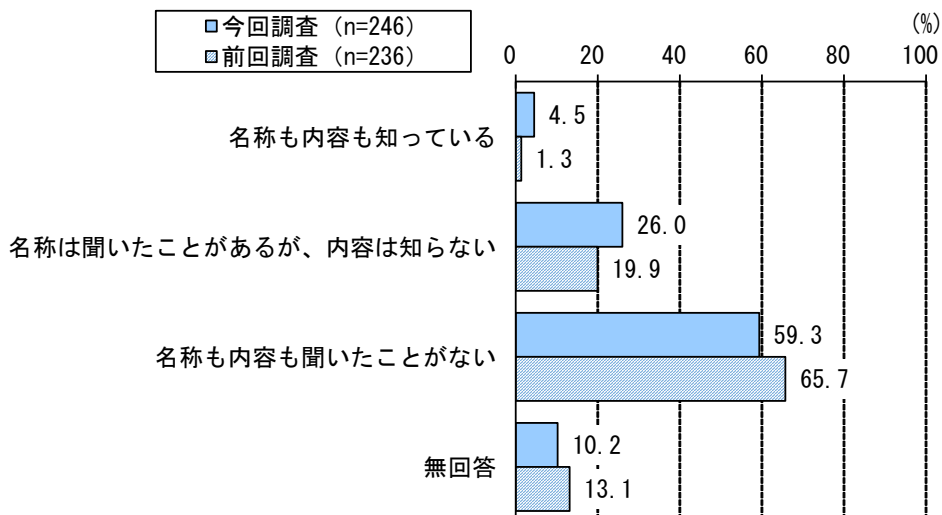
## (10) ACP(人生会議)の認知

- 経年変化をみると、今回調査で、自立高齢者は「名称も内容も知っている」「名称は聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合が増加し、「名称も内容も聞いたことがない」の割合が減少しています。要支援認定者は「名称も内容も知っている」の割合が増加し、「名称も内容も聞いたことがない」の割合が減少しています。

【ACP(人生会議)の認知(自立：前回比較)】



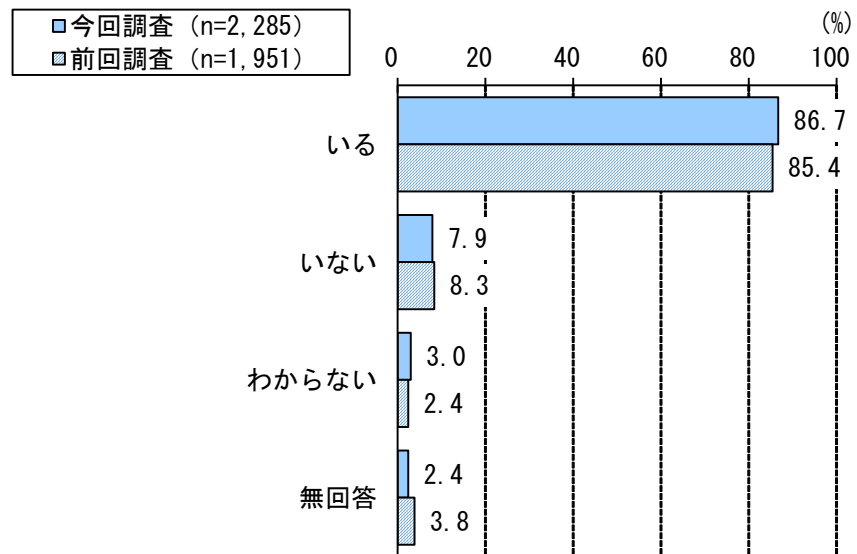
【ACP(人生会議)の認知(要支援：前回比較)】



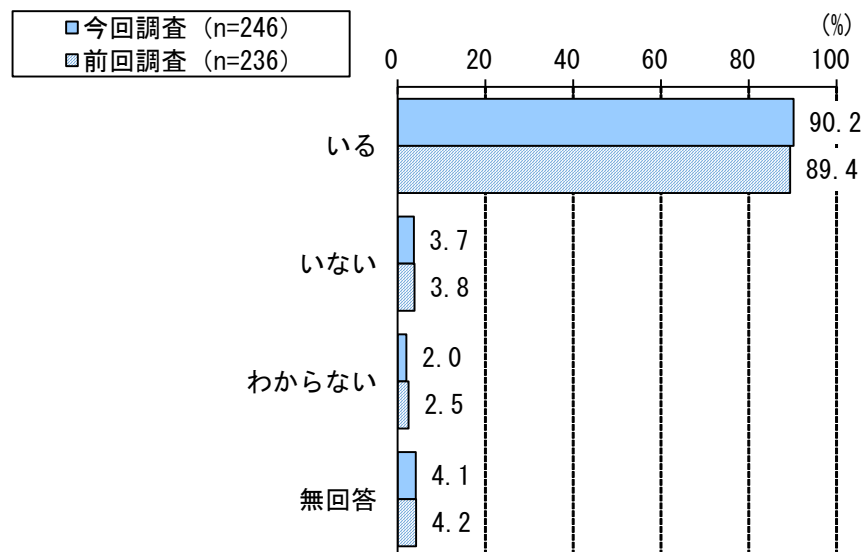
## (11) かかりつけ医・かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局

- かかりつけ医が「いる」割合は、自立高齢者・要支援認定者ともに9割となっています。
- かかりつけ歯科医が「いる」割合は、自立高齢者は7割、要支援認定者は6割となっています。
- かかりつけ薬局が「いる」割合は、自立高齢者は7割、要支援認定者は8割となっています。

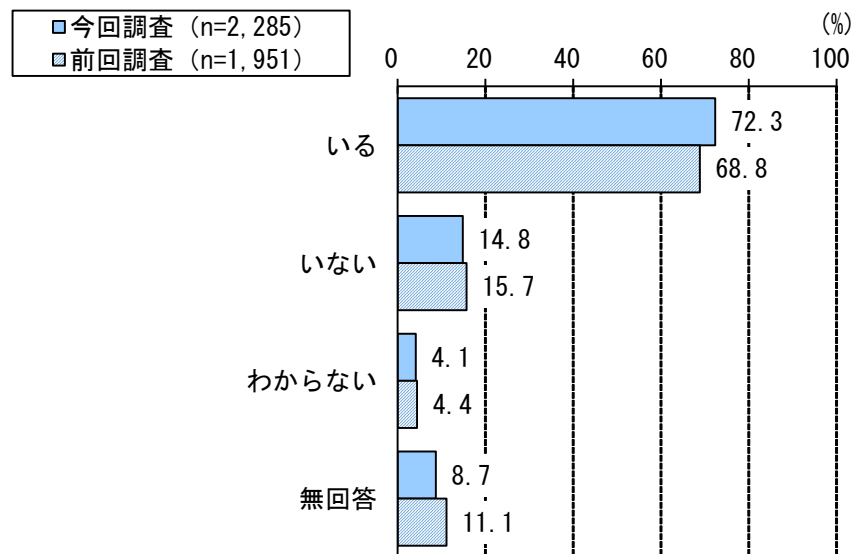
【かかりつけ医（自立：前回比較）】



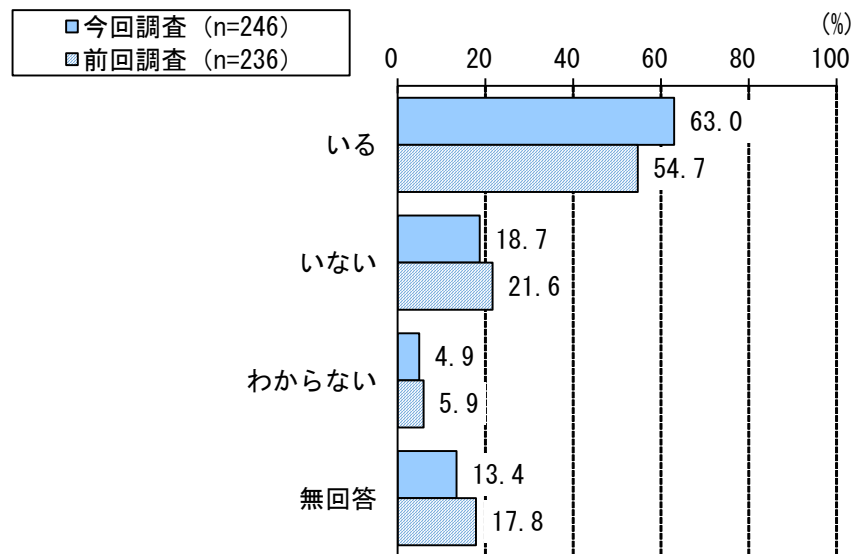
【かかりつけ医（要支援：前回比較）】



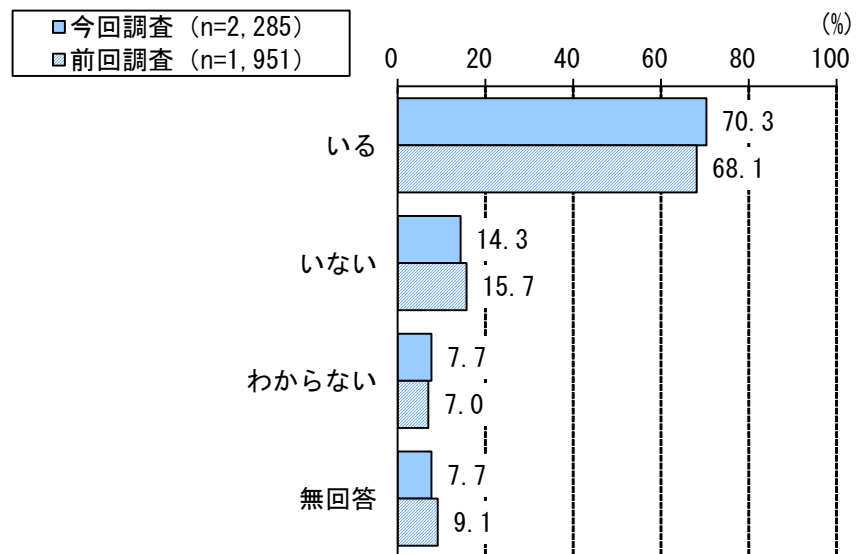
## 【かかりつけ歯科医（自立：前回比較）】



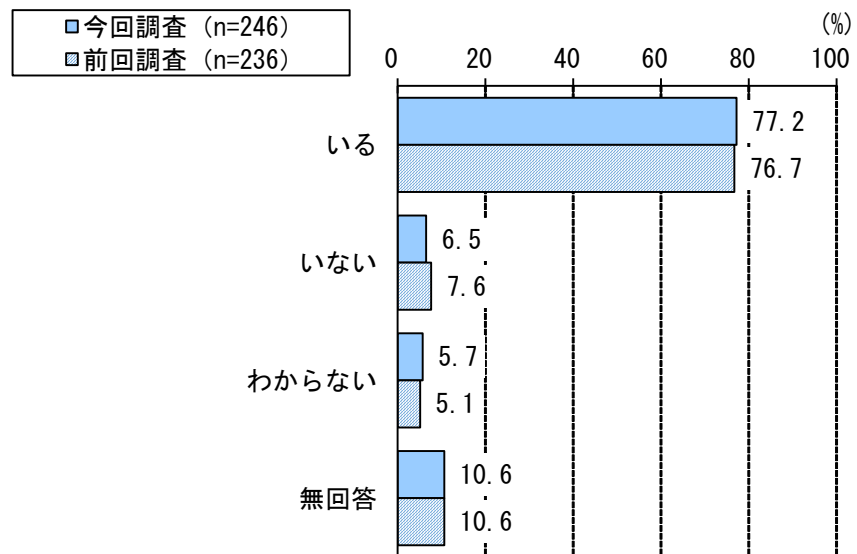
## 【かかりつけ歯科医（要支援：前回比較）】



【かかりつけ薬局（自立：前回比較）】



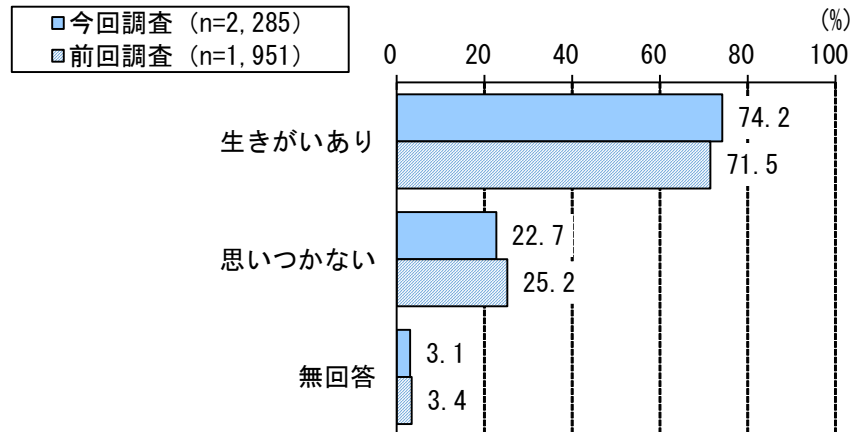
【かかりつけ薬局（要支援：前回比較）】



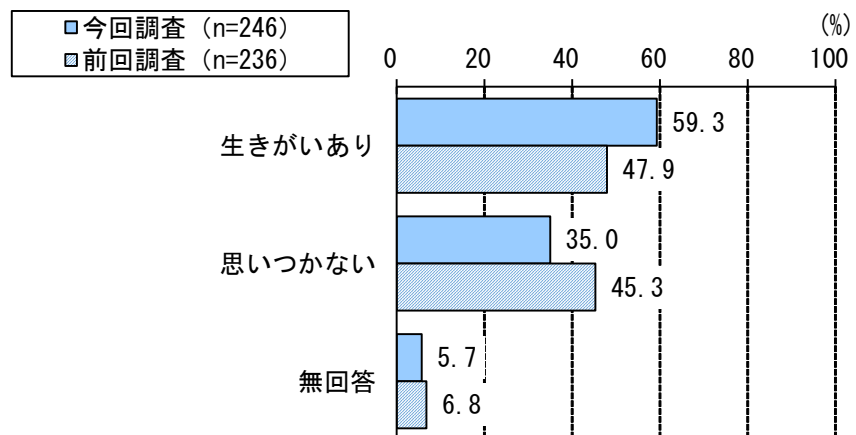
## (12) 生きがいの有無

- 経年変化をみると、今回調査で、自立高齢者・要支援認定者ともに「生きがいあり」の割合が増加、「思いつかない」の割合が減少しています。

【生きがいの有無（自立：前回比較）】



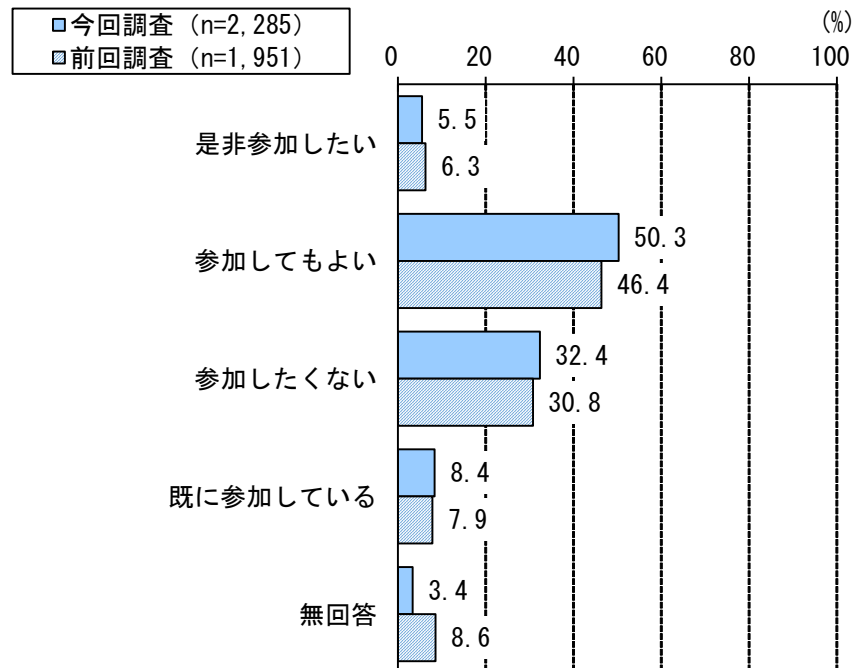
【生きがいの有無（要支援：前回比較）】



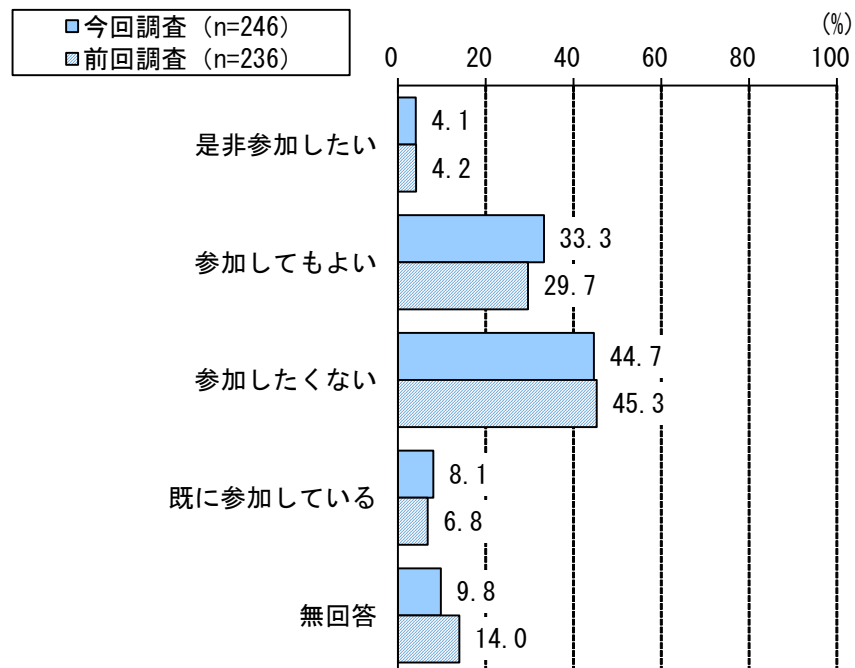
## (13) 参加者としての地域づくりへの参加意向

- 参加者としての活動への参加意向をみると、「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」を合わせると、参加意向がある割合は、自立高齢者は6割、要支援認定者は5割となっています。

【参加者としての地域づくりの参加意向（自立：前回比較）】



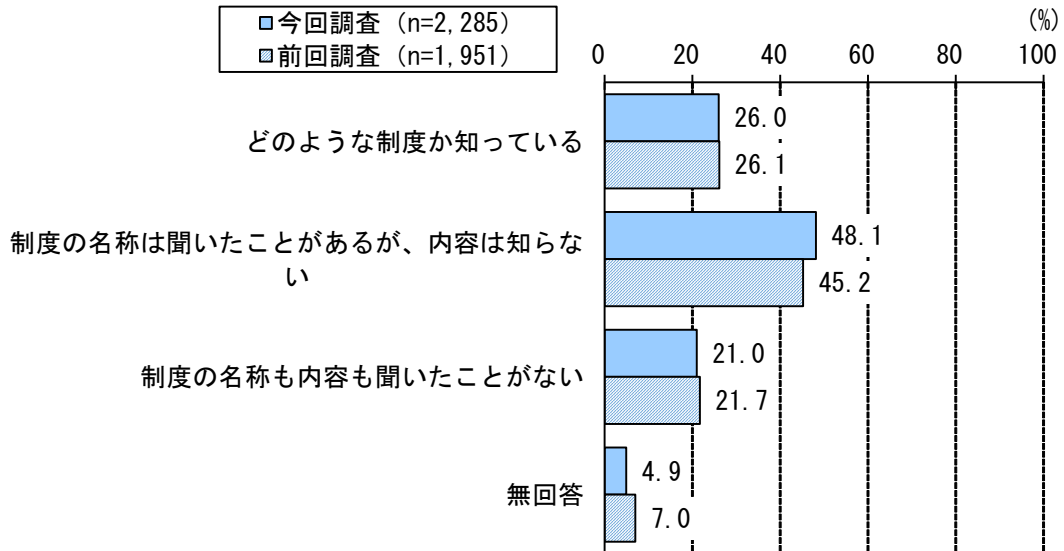
【参加者としての地域づくりの参加意向（要支援：前回比較）】



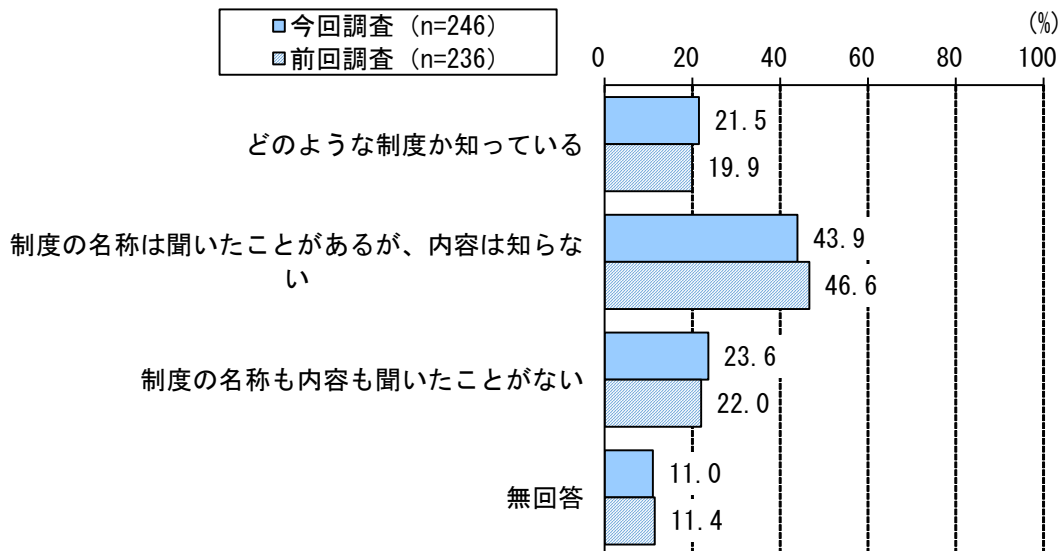
## (14) 成年後見制度の認知

- 成年後見制度を知っている人の割合は、自立高齢者は3割、要支援認定者は2割となっています。

【成年後見制度の認知（自立：前回比較）】



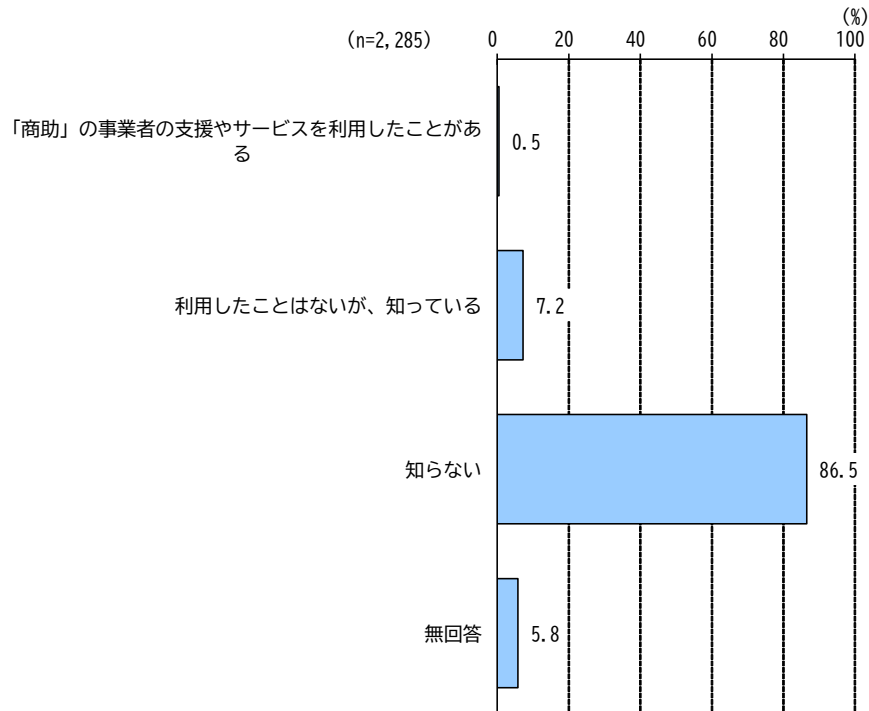
【成年後見制度の認知（要支援：前回比較）】



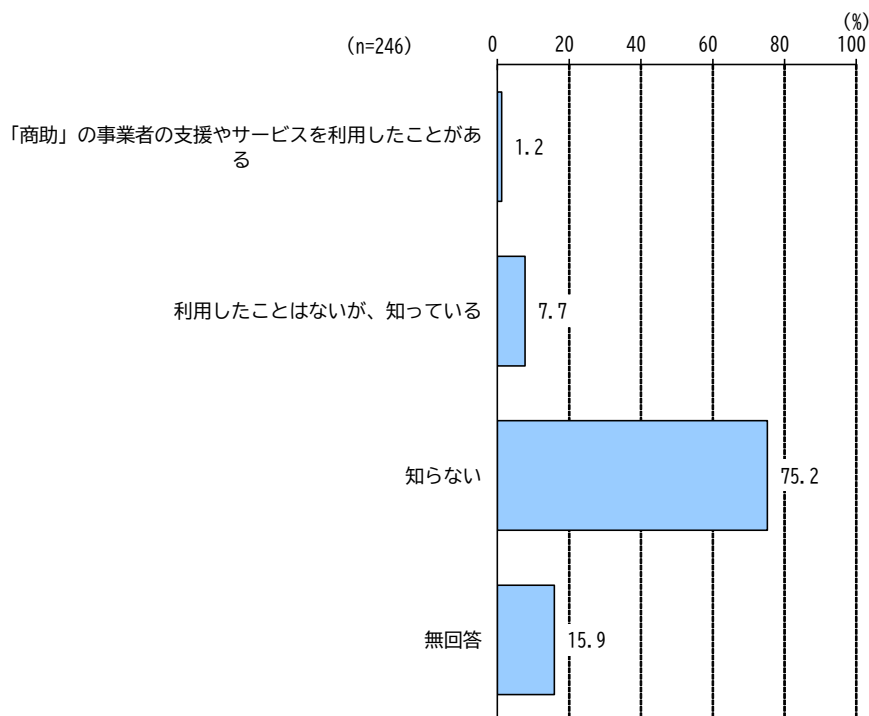
## (15) 商助の認知

- 商助を知っている人の割合は、自立高齢者・要支援認定者ともに1割となっています。
- 居住地区をみると、島・馬淵学区は「利用したことはないが、知っている」が多くなっています。

【商助の認知（自立）】



【商助の認知（要支援）】



## 【商助の認知（自立：居住地区比較）】

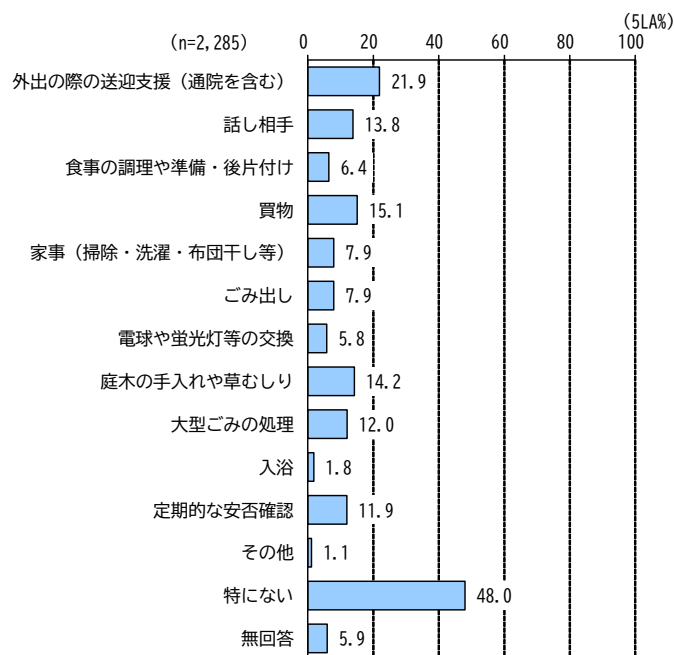
単位：%

		母数	問5 (8) 近江八幡市で行われている「商助」の取り組みについて知っていますか			
			を「商助」の事業者の支援やサービスを利用したことがある	利用したことはないが、知っている	知らない	無回答
全体 (n=2,285)		2,285	0.5	7.2	86.5	5.8
居住地区	八幡 (n=390)	390	1.3	7.2	85.4	6.2
	島 (n=70)	70	-	17.1	68.6	14.3
	岡山 (n=163)	163	-	9.2	84.0	6.7
	金田 (n=352)	352	0.6	5.7	88.6	5.1
	桐原 (n=526)	526	-	5.1	90.9	4.0
	馬淵 (n=124)	124	0.8	12.1	79.8	7.3
	北里 (n=187)	187	-	10.2	86.6	3.2
	武佐 (n=118)	118	1.7	5.9	78.8	13.6
	安土 (n=279)	279	0.4	6.1	88.2	5.4
	老蘇 (n=76)	76	-	5.3	90.8	3.9

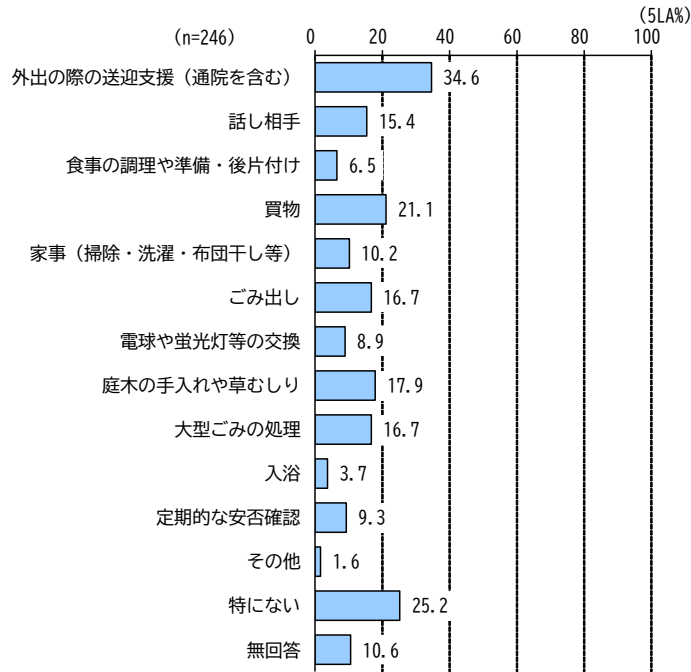
## (16) 地域の人にしてほしい支援

- 自立高齢者は、「特にない」が48.0%で最も多く、次いで「外出の際の送迎支援（通院を含む）」が21.9%、「買物」が15.1%となっています。要支援認定者は、「外出の際の送迎支援（通院を含む）」が34.6%で最も多く、次いで「特にない」が25.2%、「買物」が21.1%となっています。
- 居住地区をみると、岡山、馬淵、老蘇学区は、「話し相手」が多くなっています。島学区では、「買い物」が多くなっています。北里、安土学区では、「ゴミ出し」が多くなっています。

【地域の人にしてほしい支援（自立）】



【地域の人にしてほしい支援（要支援）】



【地域の人にしてほしい支援 (自立：居住地区比較)】

単位：%

		母数	問6 (9) 在宅生活を続ける上で、地域の人にどのような支援をしてほしいと思いますか(5LA)						
			外出の際の送迎支援 (通院を含む)	話し相手	食事の調理や準備・後片付け	買物	家事 (掃除・洗濯・布団干し等)	ごみ出し	電球や蛍光灯等の交換
全体 (n=2,285)		2,285	21.9	13.8	6.4	15.1	7.9	7.9	5.8
居住地区	八幡 (n=390)	390	19.7	11.8	6.9	12.6	8.7	8.2	6.4
	島 (n=70)	70	27.1	11.4	10.0	24.3	11.4	10.0	7.1
	岡山 (n=163)	163	27.6	19.0	3.1	17.2	9.2	6.1	4.3
	金田 (n=352)	352	17.0	11.4	6.5	13.4	7.7	6.8	7.4
	桐原 (n=526)	526	21.1	11.2	7.0	16.7	6.5	5.7	5.1
	馬淵 (n=124)	124	24.2	21.8	6.5	16.9	7.3	4.0	4.0
	北里 (n=187)	187	27.8	16.0	5.9	19.8	10.7	12.3	2.7
	武佐 (n=118)	118	18.6	13.6	10.2	11.0	10.2	7.6	2.5
	安土 (n=279)	279	22.2	14.7	4.3	11.1	5.7	11.8	8.6
	老蘇 (n=76)	76	28.9	22.4	6.6	19.7	6.6	9.2	6.6

単位：%

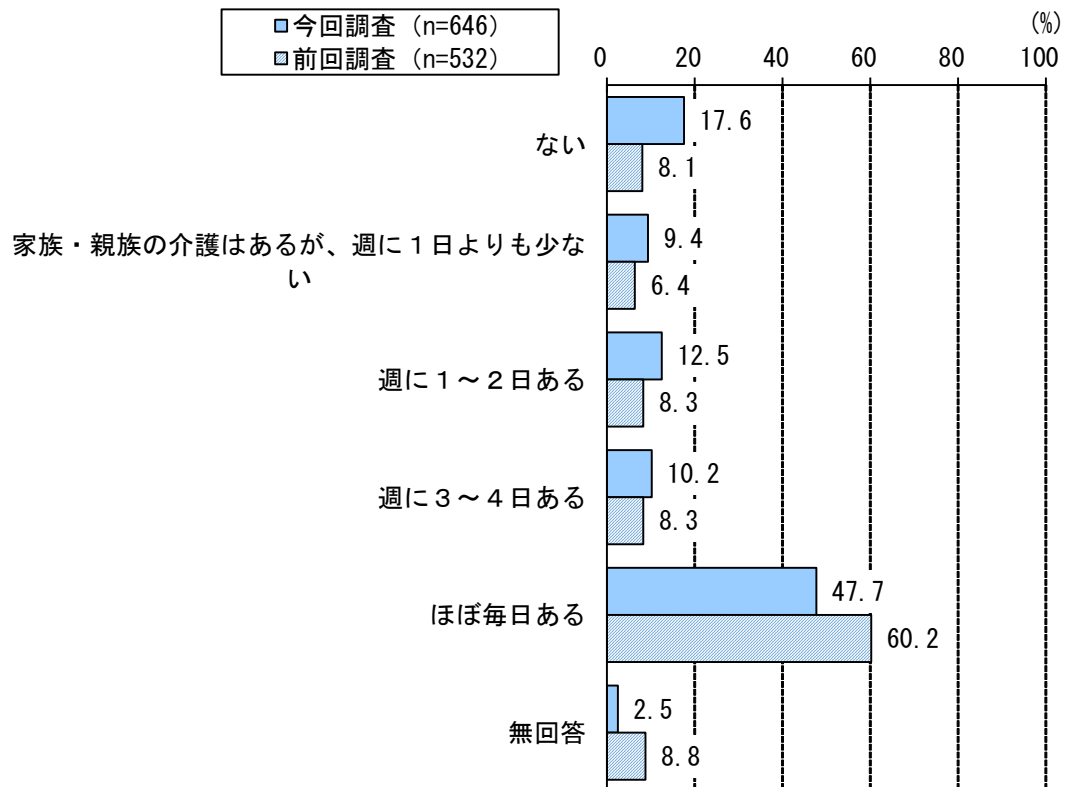
		母数	問6 (9) 在宅生活を続ける上で、地域の人にどのような支援をしてほしいと思いますか(5LA)						
			庭木の 手入れや 草むしり	大型ご みの処 理	入 浴	定 期的 な安 否確 認	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体 (n=2,285)		2,285	14.2	12.0	1.8	11.9	1.1	48.0	5.9
居 住 地 区	八幡 (n=390)	390	14.9	13.3	1.3	12.3	2.1	45.6	6.9
	島 (n=70)	70	11.4	10.0	2.9	18.6	-	38.6	10.0
	岡山 (n=163)	163	22.7	8.6	3.1	9.2	0.6	44.2	6.7
	金田 (n=352)	352	14.5	12.2	1.1	8.5	0.9	51.7	7.1
	桐原 (n=526)	526	11.8	11.6	1.1	13.5	1.0	52.5	4.2
	馬淵 (n=124)	124	12.9	8.1	1.6	14.5	-	42.7	5.6
	北里 (n=187)	187	13.9	14.4	2.1	11.8	0.5	46.0	2.7
	武佐 (n=118)	118	10.2	6.8	4.2	11.9	1.7	52.5	6.8
	安土 (n=279)	279	16.1	15.1	1.8	9.3	1.4	45.9	6.8
	老蘇 (n=76)	76	13.2	14.5	2.6	19.7	1.3	42.1	5.3

## 2) 在宅介護実態調査結果概要

## (1) 家族からの介護・介助の有無

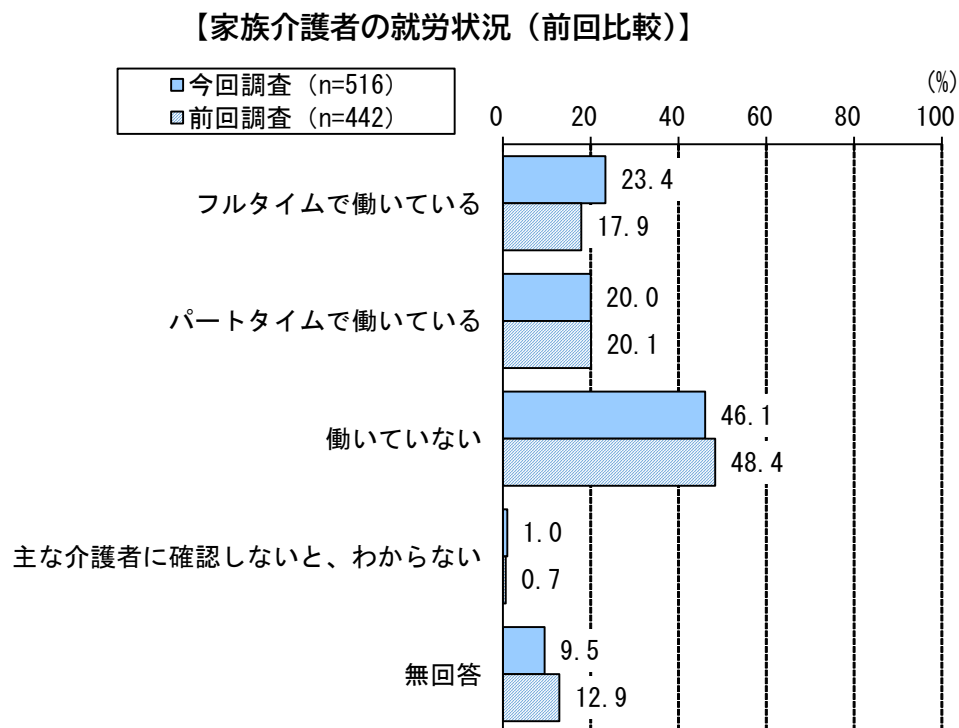
- 経年変化をみると、今回調査で、「ない」「週に1～2日ある」が増加し、「ほぼ毎日ある」が減少しています。

【家族からの介護・介助の有無（前回比較）】



## (2) 家族介護者の就労状況

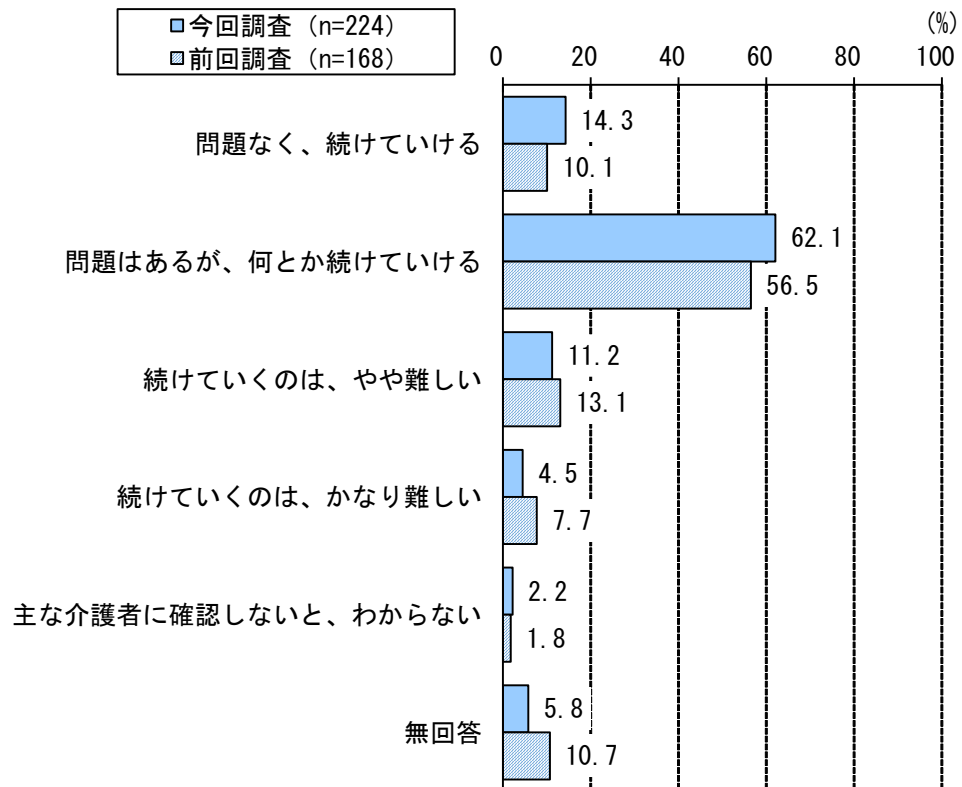
- 「働いていない」が46.1%で最も多く、「フルタイムで働いている」(23.4%)、「パートタイムで働いている」(20.0%)が続いています。



## (3) 在宅介護と就労をしている人の就労継続

- 「問題はあるが、何とか続けていける」が62.1%で最も多く、「問題なく、続けていける」(14.3%)、「続けていくのは、やや難しい」(11.2%)が続いています。

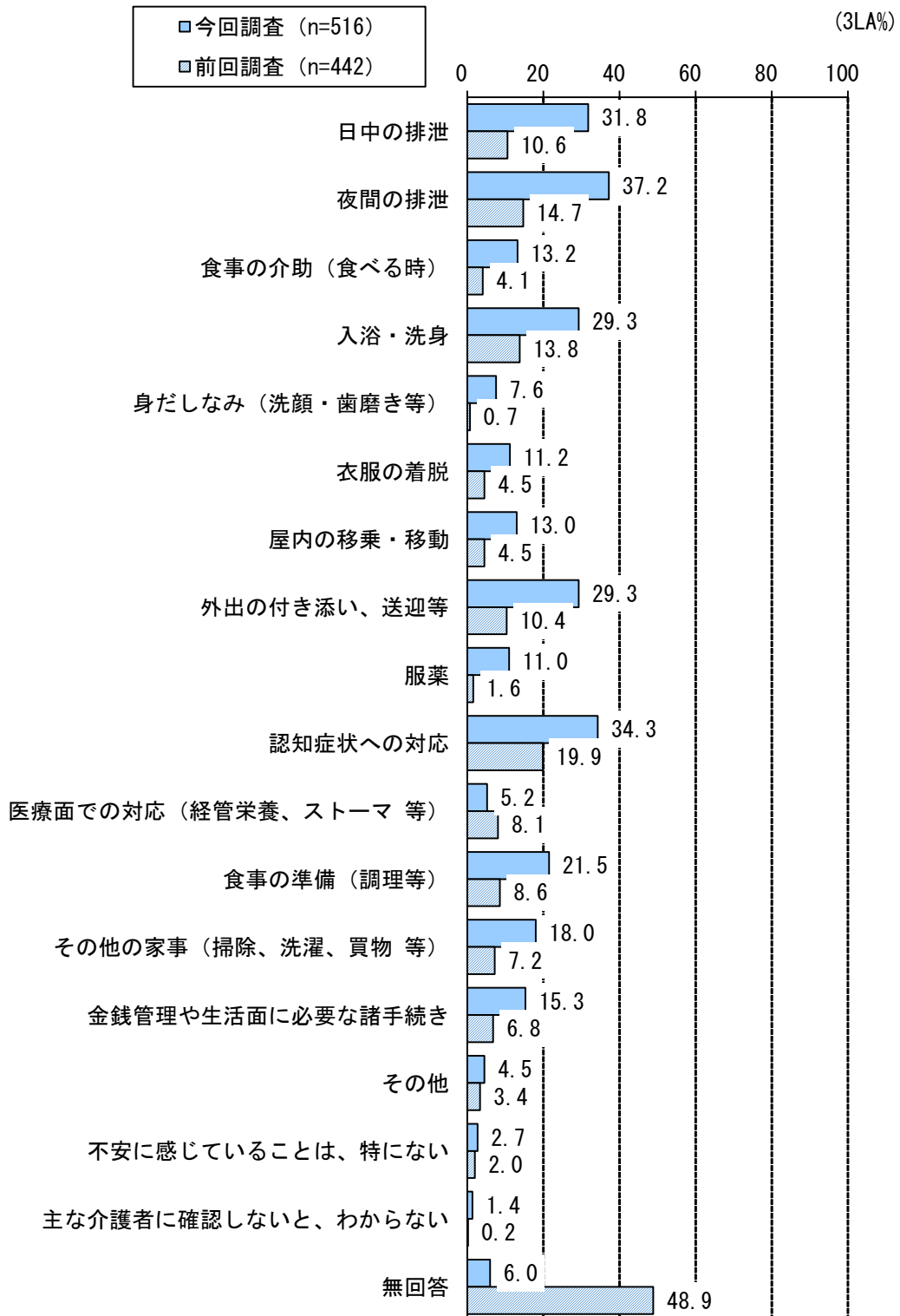
【在宅介護と就労をしている人の就労継続（前回比較）】



(4) 家族介護者が不安に感じる介護

■ 経年変化をみると、今回調査で、「日中の排泄」「夜間の排泄」「食事の介助(食べる時)」「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」「外出の付き添い、送迎等」「服薬」が増加し、「医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)」が減少しています。

【家族介護者が不安に感じる介護(前回比較)】

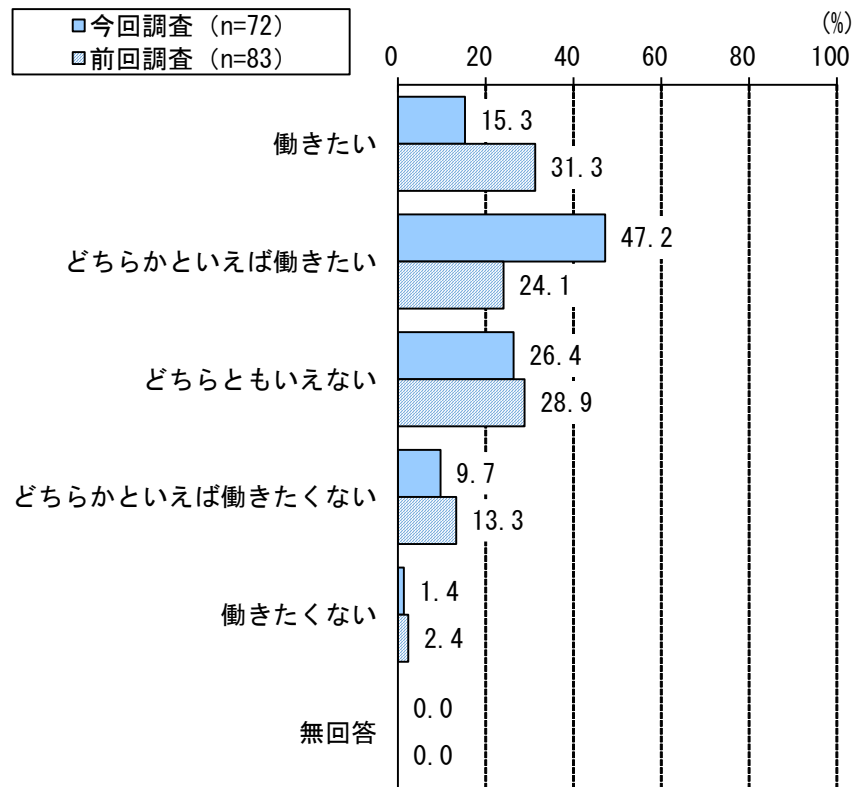


### 3) 介護支援専門員調査結果概要

#### (1) 介護支援専門員として今後も働きたいか

- 経年変化をみると、今回調査で、「働きたい」が減少し、「どちらかといえば働きたい」が増加しています。

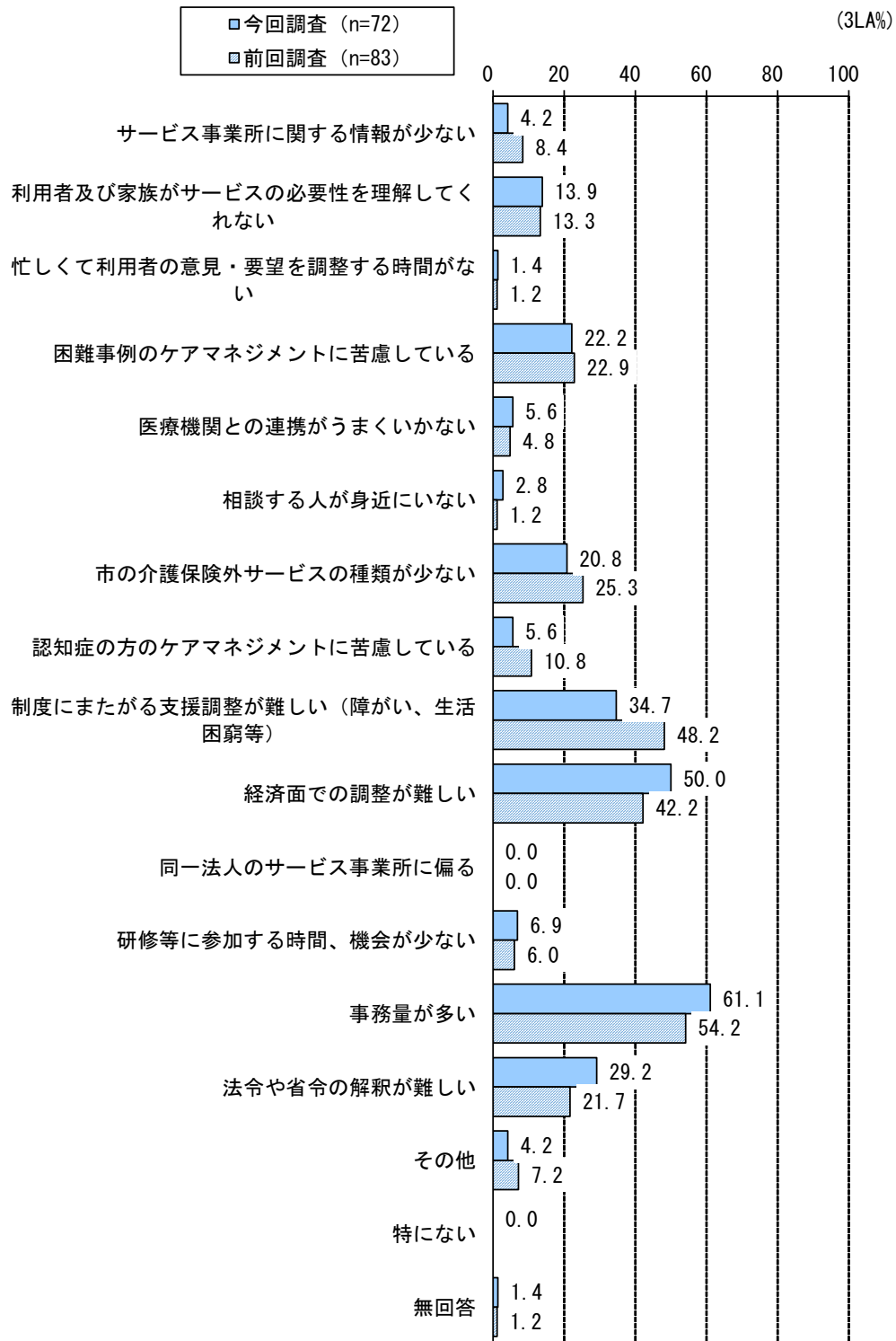
【介護支援専門員として今後も働きたいか（前回比較）】



(2) 介護支援専門員業務での課題

■ 「事務量が多い」が61.1%で最も多く、「経済面での調整が難しい」(50.0%)、「制度にまたがる支援調整が難しい(障がい、生活困窮等)」(34.7%)が続いています。

【介護支援専門員業務での課題(前回比較)】

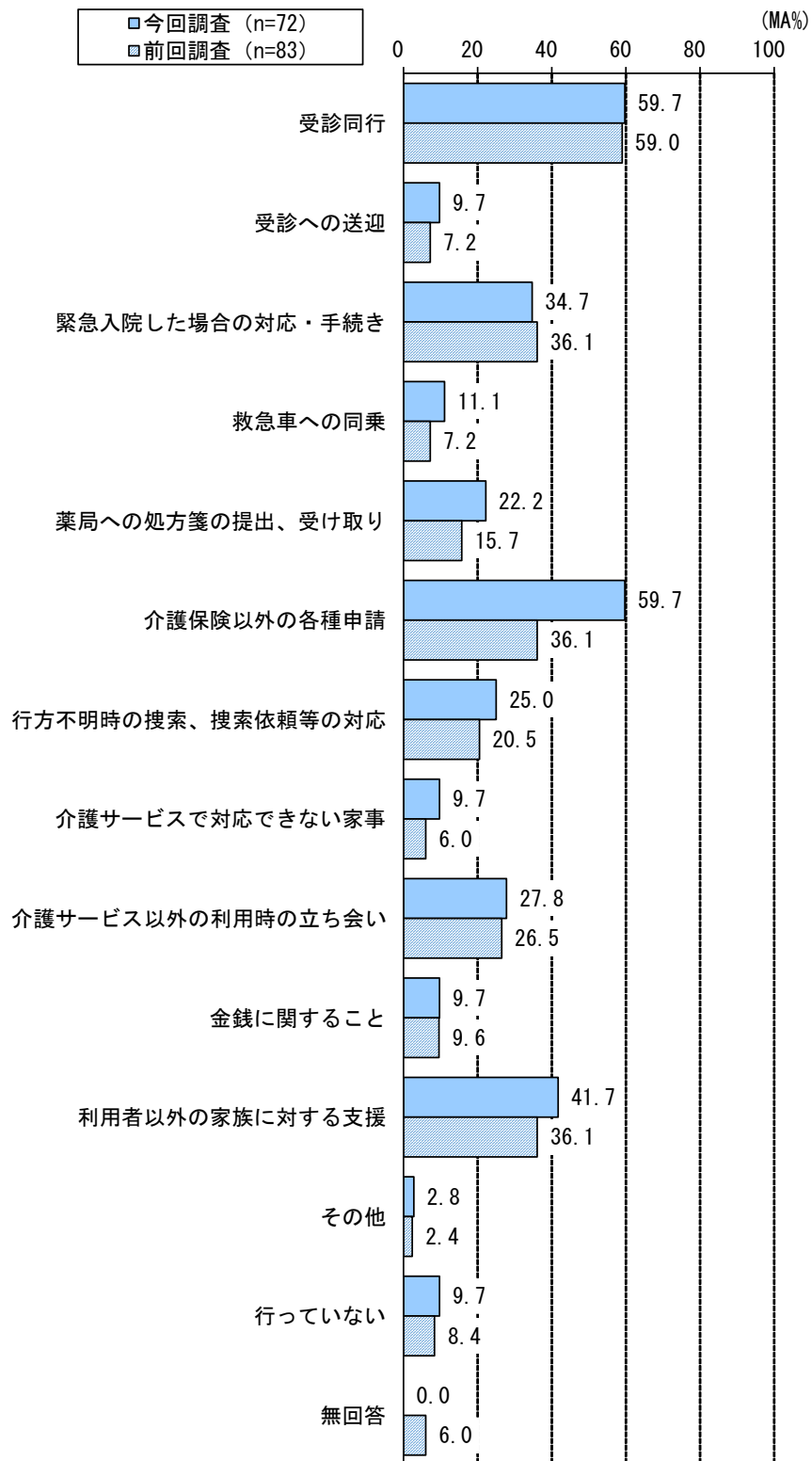


※前回は、選択肢「特になし」はなし

## (3) 介護保険法上定められているケアマネジメント業務以外の支援

■ 経年変化をみると、今回調査で、「介護保険以外の各種申請」が増加しています。

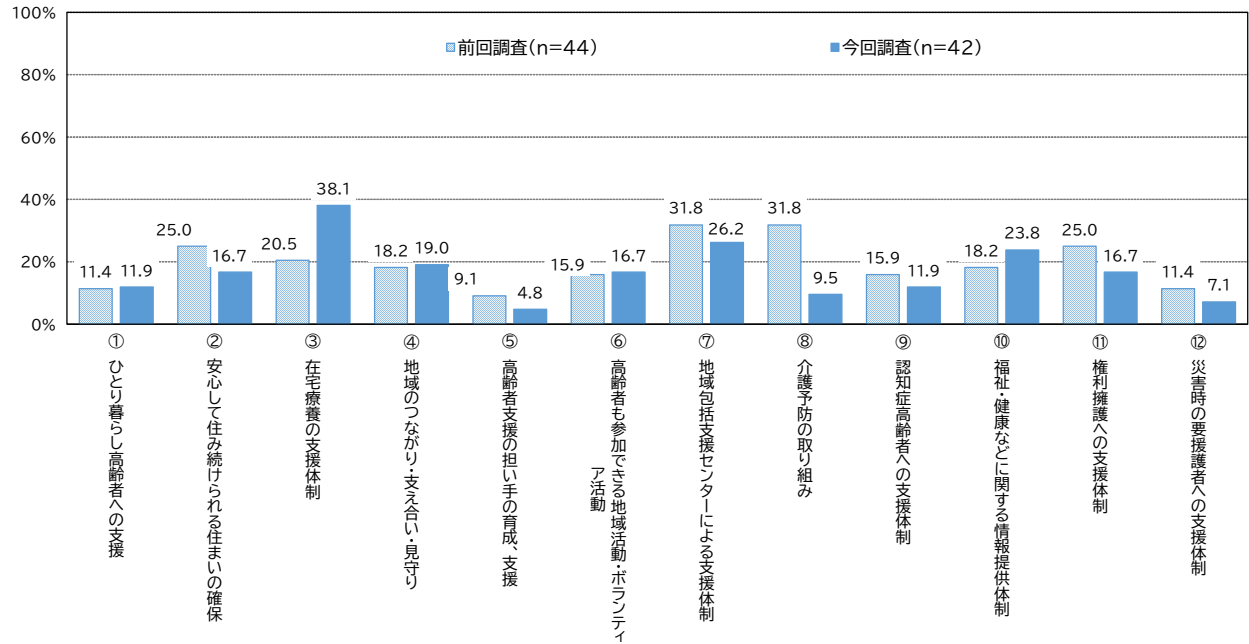
## 【介護保険法上定められているケアマネジメント業務以外の支援（前回比較）】



## (4) 介護支援専門員の立場からみた市の高齢者に対する支援の状況

- 経年変化をみると、今回調査で、「⑧介護予防の取り組み」の充実の割合が減少しています。

【市の高齢者に対する支援の状況で「充実」の割合（前回比較）】



※「充実」は、「かなり充実している」「まあ充実している」の割合の合計。

※市外の介護支援専門員は「わからない・不明・無回答」が50%以上となる設問が多いため、市内介護支援専門員のみでの回答で掲載。